



今田 信一

今田 信一（こんた しんいち）

河北町名誉町民 昭和 57 年 3 月 27 日顕彰

明治 34 年（1901）6 月溝延村田井（現河北町田井）に生まれ、大正 12 年（1923）に山形師範学校を卒業すると、溝延小学校を振り出しに、各地で小学校訓導や青年学校教諭を歴任しました。

師範学校時代に専攻した歴史、地理、国語の専門的な学術研究を続け、当時、教育方針の柱の 1 つであった郷土教育実践の先頭に立ちました。

昭和 22 年（1947）、教育制度の改革に伴って生まれた谷地町立谷地中学校の校長に任命され、以後、中学校長を歴任して教職を退きました。

昭和 25 年から谷地町誌、河北町誌編纂委員長を務められ、その結晶が『河北町の歴史』上、中、下巻ですが、執筆・編集した河北町史の研究叢書・編纂資料の数々は 50 冊を越えます。

山形県史編纂委員・同編纂会議員・同調査執筆委員として、山形県史の編纂事業に協力しました。県史の他にも数多くの市町村史などに編集執筆委員として参加しました。

数多い研究分野の中で、一貫して興味を持たれたのが最上紅花でした。昭和 17 年（1942）の「最上紅花資料」の発表以降、その研究が『最上紅花史の研究』に結実しました。研究者の間で高い評価を得ているこの本が“べに花の里かほく”の学術的裏付けになっています。